

(別紙4) 平成29年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0893100016		
法人名	有限会社さくら園		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	東茨城郡茨城町奥野谷2160		
自己評価作成日	平成26年4月30日	評価結果市町村受理日	平成29年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhiw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JkyosyoCd=0893100016-00&PreCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成29年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた安全な土地で、一人ひとりの個性に合った生活を送って居頂くことができる様、日々寄り添いながら提供させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員で作上げた「ホームに関わるすべての人が幸せに暮らせるように～」との理念を基に利用者一人ひとりの個性を活かした暮らしを大切にしている家庭的な2ユニットのホームである。地域の『アジサイ祭り』などではホームのブースを設けて『介護相談』を受けたり、地区のゴミ拾いに参加したりしながら踊りや演奏の地域ボランティアを受け入れる等、地域とはお互いに支え合う関係が築かれている。職員は研修受講や勉強会で認知症ケアの専門性を高めており、さりげない言葉かけや細やかな気配りで一人ひとりの個性を大切にされたケアを実施している。利用者一人ひとりを大切にされた暮らしぶりは各ユニットの雰囲気や共用の場作りなどの工夫にも見られる。利用者はそれぞれの体調や状態に応じて散歩や外気浴を楽しみ、職員と一緒におやつ作りや野菜作りなどを楽しみながら穏やかな暮らしの中で緩やかな変化のある日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図る為に、自分たちで理念を作り朝礼で復唱して意識の向上に努めている。	全職員で話し合い『ほほえみ』にかかわるすべての人々が幸せに暮らせるようにとの思いを込めたホームの理念を作り上げている。朝礼後に全員で唱和し、常に全職員が同じ思いで日々のケアに当たれるようにすると共に、介護計画作成時には入退院を繰り返す利用者の幸せについて全員で話し合うなど、常に理念を念頭に置いた話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の収穫祭に参加したり、ゴミ拾いの活動に参加したりしている。またデイサービスと合同で地域の方にボランティアに要請し一緒に歌ったり踊ったりしている。	地域の『アジサイ祭り』や『いばらき祭り』ではホームのブースを設け、介護相談を受ける等の地域貢献活動を積極的に進めている。また町全体で実施するゴミ拾いにはホームの出掛けやすい時間帯に参加する等、常に地域の一員として活動をしながらか地域住民との交流を図っており、散歩時などにも気軽に挨拶を交わす等日常的なお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	茨城県で開催しているイベント(いばらき祭り・あじさい祭り)でブースを借りて認知症に関する啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し事業所の活動報告や流行性の病気・地域の活動等を話し合い会議で出た意見や情報をサービスに活かしている。	家族の参加はないが、地区長や民生委員、地域の他のグループホームの参加を得て2ヶ月に1回開催している。議事録は職員やホームを訪れた家族が何時でも見られるようになっている。定期的な開催は、ホームの実情を行政の担当者や地域の方々に知ってもらう機会にすると共に、地域行事への招待を受けたり、外出時の支援を得る等、利用者の日々の暮らしに楽しみごとを取り入れる良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当者と連携をとり問題が起きた時には報告・連絡・相談を行い協力関係を築いている。	運営推進会議ではホームの活動状況などを丁寧に報告すると共に、ホームを訪れた担当職員には利用者の寛ぐ様子などを見て頂きホームの実情を知ってもらっている。必要に応じて行政の担当窓口を訪れ、気軽に相談が出来る関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室、玄関の施錠はしておらず、開放的になっていく。ベット柵についても安全の範囲で行い、車椅子からの立ち上がりも常時出来る状態である。	常に身体拘束についての話し合いや勉強会を実施しており、全職員が身体拘束による弊害も含めて身体拘束について正しい知識を身に付け、拘束のないケアを実施している。玄関の施錠はせず、また居室の窓も自由に開閉できるようにして閉塞感のない暮らしができるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催して虐待について職員で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を学び当てはまる利用者様には制度を活用して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に一つ一つ説明し、疑問点が残らないようにさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情担当係りを設けており、管理者携帯も通知している。又、面会時にご意見を頂くこともある。それらを処遇に関することは、会議にて話し合い検討している。	管理者は日頃から利用者の要望などにじっくり耳を傾けており、思い付きなども含めて何でも話せるような雰囲気づくりに努めている。家族に対しては毎月の訪問時に日頃の様子を丁寧に伝えながら話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換を出来る環境を整備して職員の意見を施設運営に反映させている。	管理者は話しやすい管理者を目指しており、またホームの運営は全員の思いを出し合いながら実施するものと考えているところから、常に職員の提案や気づきを運営に取り入れている。研修への参加や備品の購入など職員からの要望などを聴きながら実施することが多く、様々な場面で職員の意見や提案が反映されている。勤務については希望休3日を入れて職員がシフトを作っており、急な休みにも対応できるようになっている。また食後の休憩時間もそれぞれが取れるようになっており、無理のない勤務体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内会議で職員のやりがいが出るように就業規則の見直しや昇給・退職金等議題にし話し合い改善して行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加してもらう様に促し、研修を受けてもらっている。社内ですべての部署に異動し互いに触発できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の居宅ケアマネとの交流の機会を設け、率直に出来ない所を指摘してもらえるような環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容・傾聴・共感を基に情報収集を行い初期の利用者様とは一緒に居る時間を長く取るようにして信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時～家族とは密に情報交換や情報の共有に努めて家族との信頼関係を構築できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期に得た情報を基にカンファレンスを開き必要としている支援を見極めて必要な時には外部のサービスを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の立場に立ち、なんでも話せるような関係を作れるように努力しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さまにしか出来ないこと等、利用者と家族だけの関係を大切にしながらご家族さまとよく相談をし一緒に本人を支えていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友人に手紙を送る等の支援を行い以前からの関係継続に努めている、馴染みの商店で買い物をしたり以前から受診している病院で受診したりする事で馴染みの方とのコミュニケーションが取れている。	地域の収穫祭への参加やゴミ拾い等の場で友人や知人との出会いがあり、以前から付き合いがある商店での買い物や行きつけの理髪店の利用など、これまでの付き合いを大切にしながら支援を行っている。中には家族の協力を得ながら冠婚葬祭などへ参加して、懐かしい方々とお会いしたりする利用者もいる。また年賀状のやり取りやお彼岸の墓参など一人ひとりが希望するつながりや習慣を大切にしながら暮らしを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や話の合う方、出身地が同じ方にリビングで近くに座って頂いたり、それぞれ紹介あつたり皆と一緒に暮らす仲間として生活できています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に年賀状を出したり、行事等に声掛けをしたりして、相談が出来るような関係を築いています。入院先の病院を定期的に訪問しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のその時の体調や気分に合わせて生活出来るように努めている。	マッサージを受けたい、馴染みの人とのつながりを大切にしたい等、それぞれに思いをつたえて頂いている。新聞に毎日目を通す習慣の継続やナスやトマトを育てるなどの農業経験を活かした暮らしをしたい等、個別に把握している。言葉で伝える事が困難な利用者の場合には普段の表情から変化などを観察し、話しやすい雰囲気の中でじっくり聞くようにして一人ひとりの思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からよく話を伺い自宅で生活している時と同じような生活が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントをして現状に合った介護が出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護や、見聞きした状況を持ち寄り、毎月のケアカンファで意見の交換を行う。それを反映させ、ケアプランに取り入れている。	全職員の参加の下で行われるカンファレンスなどを通して丁寧なアセスメントを行い、本人・家族の希望や職員の気づき等も取り入れた介護計画が作成されている。計画はそれぞれの楽しみ事なども具体的に示され、暮らしに反映されるものとなっている。日々の支援経過記録(ケース記録)を基に定期的な見直しを実施している。さらに職員の気づきや利用者の状態に応じた随時の見直しも適切に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや生活記録に情報を記入し、毎月カンファレンスを行い情報を共有し計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のマッサージを受けて頂いたり、同敷地内のデイサービスでのレクリエーションに参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターにボランティアさんの情報等をいただき、施設に来ていただいたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの馴染みの病院に於いて診て頂いている、基本的には家族の付き添いで受診して頂いているが緊急時や家族の都合によっては職員が付き添い連携に努めている。	これまでのかかりつけ医への受診を支援しており、遠方でない限りは職員が無料で付き添い受診している。家族が付き添った場合には受診内容や結果を聴き取り、受診結果表に記録し、本人・家族・職員が共有できるようにしている。月1回の往診を受ける利用者など一人ひとりの状態に応じた受診と、各ユニット毎に週2回の訪問看護を利用して常に利用者の健康状態を把握し、適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診結果表に基づいて次回受診時に何を話せば良いか看護師と相談して、適切な受診が出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に様子観察に伺い、入院先の先生や看護師・MSWさんと連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が悪化した場合、主治医やご家族と相談を基、其の方の症状や気持ちに合った治療、介護方針を考え、協力病院に依頼し、看取りも取り入れている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」で本人・家族にホームの考え方を丁寧に説明し、看取りについての方針の共有を図っている。重度化に伴い、話し合いを持ち、本人の状態や家族の希望、往診医の確保など、ホームでの看取り体制が整えられる場合には看取りを実施している。職員は利用者の状態に応じて看護師など医療スタッフから指導を受けながらの勉強会を実施しており、全員が重度化した利用者についてのケア方針を共有しながら日々の支援ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し落ち着いて対応が出来るように心がけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの避難訓練を年に2度行っています。そのうち一回は消防署立会の下利用者様全員参加で行っている。	消防署と協力して、夜間想定や失火元を特定した火災時の避難訓練を実施すると共に、地震などに備えた総合的な避難訓練を実施している。消防署への通報の方法なども明記した緊急時マニュアルを作り、スムーズに通報ができるようにしている。ホーム内は非常口の明記や庭の出入り口を複数設ける等、利用者の安全確保の為の対策が丁寧に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方や声の大きさ等に十分に配慮し誇りは自尊心を害しない対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの違いや特徴を「特徴ノート」に書き止め一人ひとりに合った言葉かけなどを共有して、親しみを込めながらも年長者への尊敬の気持ちを表現できるよう工夫している。野菜作りや花の手入れ等それぞれが得意なことを役割として誇りある暮らしができるよう支援している。	家族などホームを訪れる方々の面会簿の様式や取り扱い、保管の方法についての話し合いに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者さまが自分の希望を言えるような雰囲気作りに心がけ、また普段から表情の変化等をよく観察し職員に打ち明けて頂けるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をずらしたり、その日の体調や気分に合わせて生活して頂けるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の模様替えの際等入所者様と共に話し合いながら整理をし季節に合ったその人らしい身だしなみが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決定の際に入所者様の食べたいものなどを聞き出しメニューを作成しています。好き嫌い、好みの味を個別に対応しそれぞれが食事を楽しめるように心掛けています。	職員が利用者の好みなどを把握したうえで献立を考え、近くの商店から食材を購入して、各ユニット毎に職員が調理している。食事作りを手伝ってくれる地域の方がおり、変化のある食事は利用者の楽しみとなっている。日々の暮らしの中でレクリエーションとして、たこ焼きなどのおやつ作りを楽しんでいる。職員も一緒に食事は利用者の好み把握したり食事量を知る良い機会ともなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方等に関しては主治医に相談したり、好物やおやつ等で摂取して頂けるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に応じて、口腔内の清潔に対してケアさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、対応している。身体の状態を良く観察しトイレ誘導を行ったりし排泄の自立のに向けた支援に努めています。	パットの使用や声掛けはあるが、日中は全員がトイレで排泄している。夜間もポータブルの利用やパットの工夫でオムツを使用しない支援を実施している。夜間の声掛けに応じず失禁でシーツまで汚染する場合でも、本人の希望によってはパット等の工夫でオムツにしない支援をしている。失敗が多くなった場合には家族も含めて話し合いをし、声掛けの工夫などでオムツを使用しない支援を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を処方してもらう前に運動をしていただいたり、水分に気を付けたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な時間帯の目安はあるが、曜日時間に関わらず、お湯が脹れる状態にある。利用者に希望に対し決め付けず、折り合いを取り希望時にタイミングが合う様にしている。	週3回の入浴としているが、毎日湯は沸かしてあり、希望があれば何時でも入浴ができるようにしている。体調によってはデイサービスの浴室で機械浴を行うなど利用者に負担をかけずに気持ちよく入浴してもらうこともある。拒否のある場合には無理強いすることなく、時間をずらしながら本人が納得した時の入浴やシャワー浴など柔軟な対応で入浴を楽しめるよう工夫している。しょうぶ湯など季節による楽しみ事も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活のリズムに気を付けて、日中過ごしていただき、夜勤者との申し送りをし不眠時には休息を促したりして支援させていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情シート等を管理して職員が薬の情報を得られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や歌番組等入居者さまの楽しみを把握し、その日の状態に合わせて料理補助や洗濯物を畳んだり等の役割をこなして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個人の要望に対し、本人が満足できるように支援できるように配慮し、日光浴や散歩付き添い月に一度の買い物など本人の希望を把握しながら支援出来るように努力している。	ホーム敷地内の野菜の育ち具合を見たり、花を見たりと常に外気に触れる機会があり、近所の散歩も日常的に行っている。天気の良い日などその日の様子や利用者の希望で笠間稲荷や大洗、愛宕山など少し離れた場所へ車で随時出掛けしている。デイサービスで行う移動販売の日には、利用者も出かけて自由に好みの商品を選びながら買い物を楽しんでいる。中には家族と一緒に冠婚葬祭や墓参などの外出を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は自分で管理されている、月に一度の買い物や欲しいものがある時には職員が傾聴し自分で使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をしたり、電話で話せない分野場合は本人の要望を職員が伝えたり、家族から聴き取りした家族の近況を本人に伝えたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、障害物になるものはおかない。季節の花、毎日が分かる手作りカレンダーや、季節が感じられる壁画などを作成、展示している。	玄関先のプランターには季節の花と共に夏に向けて朝顔の苗づくりが始まっている等、利用者と職員が一緒に日々の暮らしを大切にしている様子がうかがえた。トイレや浴室は清潔で使い易い工夫があり、居間には手作りの鯉のぼりを飾り、食卓には季節柄カーネーションの鉢植えを置くなど季節感のある暮らしを日頃から楽しんでいる様子が見られた。食堂から食事作りをしている様子が見られる造りの台所は食べることの楽しみを増すと同時に家庭的な雰囲気を感じさせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを置き一人に慣れる場所を作っています。また日々の行事によっては席を変えた工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物や、ご家族の写真等を飾ったり、して本人の居心地良い空間を作っています。	各居室は洗面台の有無や広さの違いなど多少の変化はあるが、収納力がある大きなクローゼットがあり、使い慣れたタンスや椅子、テレビ、家族の写真などを置いて、それぞれが好みに合わせて、安心して暮らせるように工夫されている。排泄用品などは目につかないように片付けてあり、利用者一人ひとりが自尊心を持ちながらその人らしく過ごせるような細やかな心遣いがされており、居心地よく過ごせる空間づくりへの配慮が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向け身体機能向上訓練等を安全に出来るような環境整備をして出来る事を増やせるように支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームほほえみ

目標達成計画

作成日: 平成 29 年 7 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	来訪時の面会簿に対する保管や様式に改善点がある。(ノートに書いて頂き方式になっていてプライバシーや個人情報の保護に配慮が無かった)	来館者様のプライバシーや個人情報の保護に努めたい。	面会簿ノートを撤去して面会カードを作成し玄関入り口に設置して記入した面会カードを職員に渡して頂くこととして個人情報の保護に努めている。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。